

第6回府中市子ども・子育て会議報告書

- 1 日 時：令和8年3月26日（木）14：00～15：30
- 2 場 所：府中市役所2階 第一応接室
- 3 出席者：吉原 純（会長） 金子 努（副会長）
広瀬 和彦（委員） 田中 いづみ（委員）
※板橋千代美委員、河村昌子委員、土井健嗣委員、宗藤正典委員は欠席

4 概 要

- (1) 開会
- (2) 会長・副会長の選任
- (3) 報告
報告1 こども・若者の意見聴取について資料1
報告2 府中市子育て支援事業に関するアンケート調査結果について資料2
報告3 第1期府中市こども計画 令和7年度事業評価について資料3
報告4 保育所等の現状について資料4
- (4) その他
- (5) 閉会

以下、主な質疑及び意見等（※会長、副会長の発言についても委員として表記）

【報告1】 こども・若者の意見聴取について

【報告2】 府中市子育て支援事業に関するアンケート調査結果について

【報告3】 第1期府中市こども計画 令和7年度事業評価について

委 員 アンケートで県外に出たいということは、挑戦しようと思っている、やる気に満ちている若者が多いと思っているのではないかと。
出て学び、そして府中市よかったな、家族や仲間がいる府中市に戻ろうと思っ
てもらえればよいのではないかと。

委 員 国外でという感覚が今の中学生にはあまりないのだと思った。これだけグローバルになっている世の中であるが、国外にあまり目を向けていない。学校でキャリア教育を進めている。そのキャリア教育のトレーニングを受けて考え方が変わっていく生徒も非常に多いのではないかと。

子どもの虐待防止について、ヤングケアラーの概念が急速に変わっていく。細かいところでチェックの項目も変わってくると思う。そういったフォローの方が必要なのではないかと。保護者との連携も必要。そのチェック機能を付帯していくことが大事。

委員 重点施策については、子どもが子どもらしく当たり前生きていくための内容となっている。一回これをやって上手くいったというよりも、常に見直しや、状況を確認していかないといけない。評価としてはA、Bとなっているので引き続き大切にしていきたい。

委員 資料1について、商業施設・娯楽の充実や交通・アクセスなど利便性の向上について、若い人、学生の人というのは福山駅に目が行く。府中市にそういった娯楽の施設がない。府中市にも空地が国道、県道沿いにある。こういった所も市は充実していかないといけない。

資料3について、保育所（園）での保護者の保育体験について、評価Bとなっている。課題について、保育所（園）における保育体験の実施はできていないとあるが、保護者の保育体験というのはどういった体験になるのか。

事務局 保護者の保育体験については、子どもへの関わり方などについて、保育所へ実際に来てもらい、保育士が子どもに関わっているところを見てもらい知ってもらおう。子ども達の普段の様子、子どもの姿を見てもらおう。一日体験みたいな事とか、保育を実際にしてみてもらおう。そういった事をしていけたらと考えている。

以前、そういった体験を取り入れた保育所があったが、なかなか継続していかなかった。また、コロナの影響により途切れてしまっている。

今のお母さん、お父さんたちは仕事もあり忙しい生活をされている中、参観日に来ていただくのと併せて体験というのは難しい面もあるが、考えていきたい。

委員 保育体験に来られた方はとても喜ばれて我が子だけでなく、みんながかわいく思えるようになったと言われた。視野が広がる、子ども同士の育ち合いみたいな事が理解していただけた。こういった事が増えていけばいいなと現場では思っている。

委員 保育所での保護者の体験について、子どもへの声掛けをするのにお母さんがどうやって声掛けをすればよいか、わからない。絵本を読んであげたいけれど、絵本選びというよりもどうやって読んだらいいかわからない方が結構おられる。そういう方に一緒に体験していただく中で理解する場があればいいけれども、仕事があるから参加できない。行きたいけれど勇気がでないなど様々なケースがあるのではないかと。機会を増やしてあげるといふ事が必要。年1回2回の機会を狙って行くのは難しい。機会の増やし方を工夫しない限り、色んな人には

行き届かない。

委員 資料1のあなたは将来どこで生活したいと思いますかについて、国外で暮らしたいという思い、府中市以外で暮らしたいと思われる理由も聞いていただきたい。

問5の商業施設・娯楽の充実、既存の娯楽施設とかに話が向くと思うが、それだけではなく府中市独自の文化活動、子ども達が遊べるような場づくり。既存の娯楽施設ではなく、街の人達と触れ合いながら楽しめる、遊べる、生きがいを感じられるような活動を、それぞれの地域で地道にやっていくと、それが将来いったん外に出ても帰ってきたいという風なものにつながっていくのではないかと考えます。

資料2について、概ね満足されているという事であったが、未就学児を抱えておられる世帯の満足度は高かったが、小学生のみの世帯となると下がるという、小学生のお子さんがある世帯に対しての施策も今後充実させていかないと子育ての満足度というのは高める事は難しい。

児童虐待、一人親家庭、障がいなどをお持ちで配慮が必要な子どもへの取り組みについて、いずれも満足度が低い。その一つの理由が「わからない」「知らない」というところあげられている、やっている側はある程度やっていると思っても、やはり知られていない。知っている人は使って、それなりに満足していただいているけれども、そもそも知らない人は使えない。そこは資料3の評価の部分に係るのですが、虐待などの評価はA、Bと比較的高い評価をされている。一方で資料2の方で満足度を見ると低いというのは、やはり知られていない、知っている方が一部に限られるのではないか。そこは今後もっとPRをする仕方を工夫していかないと、市民の多くが満足感を持つという事にはなかなかならない。

父親向けのイベントを土曜日に開催されているという事で評価されているが、一方で土日祝日をお勤めになっており、逆に土曜日が参加できないという方は割合的には少ないのかもしれないが、そういう人のところにも目を向けて参加できる場も作っていかないと離れていってしまうのではないか。

まだまだ手が付けられていないところを取り組んでいただいて全体の底上げを図るようにしていくといいのではないか。

委員 保育所でのおじいちゃん、おばあちゃんとの関わりの機会が無くなってきていると感じる。

委員 ものすごく減ったという印象はないですが、家庭によってはバラツキもある。

最近はおじいちゃん、おばあちゃんが若かったり、お仕事されていたりして自分達も忙しいので休みの時に孫の面倒を見るのはしんどいよっていうケースは多くなっている。

委員 核家族でおじいちゃん、おばあちゃんの家と若い方の家庭が分かれていって、家も別という形になっている。お年寄りのそれなりのスキル、経験は豊富なので、そういう所はもう少し増やしていくべき。

委員 何も無い基盤の上にいい施策を置いてもダラダラと動いてしまう。まずやるべきことというのは、CSという名目があるので利用して地域と子ども達との関わりを増やしていく。大きなことではないけれども企画をして大人の人にも高齢者の方にも来ていただくという様なことを広げたい。

委員 まだまだ地域によってはCSはやっているが、町全体でいうと中々浸透していない。
コミュニティーセンターという場所がある。これは会合とかそういったことで使われているがこれをもう少し上手い事利用できないか。例えば夏休みの子どもが集まって、高校生が勉強を教えるとか。そういった子ども同士が触れ合うような。その中にお年寄りが入って一緒に遊ぶとか、そういった所をもう少し場所を何とか上手く使ってそういうことができないか。

委員 みなさんがおっしゃる様に地道な活動が人を繋いでいって、街が活気づくというのは正にそうだと思う。その上でこういう施策があるというものも分かっているながら、じゃあ地道に何をしていくかという実際のところがすごく大切だなと思う。

府中市はCSがすごく充実しています。でも私の地域ではこの先どうしようかという頭打ちです。でも、今みたいに成功例を交流することでそれなら自分の地域でもできるかなという。さきほどのように高校生がやってくれるよって言ったら、一緒にしたいなと思う地域も沢山あると思う。そこから繋がっていたり、学びがあったりというところからの仲間づくり。学校だけでない仲間づくり、居場所づくりっていうものが行われることで引きこもりとか不登校とかにも関係してくるし、仲間がいるから地元愛というのが生まれてくる。そういうことに全体が繋がっていかないと、子ども子育てに小さい子のところだけでなく、その先というのはそういうところにヒントがあるのではないかな。安心安全、そして、帰ってきたいという思いにつなげていけたらいいのかなと皆様の意見を聴いて思う。

【報告4】 保育所等の現状について

委員 大変難しい内容だと思います。色々国の制度も変わり、保育所の役割、子どもにとって何がいいのかなと考えている。

事務局 府中市の場合基本的に虐待が保育所等で起こるとは想定していない。ただ、保育所等で虐待がおきた時の対応というのを国、県の方で整理をされた。万が一府中市内の施設等でおきた場合に子育て応援課に報告をいただく。その報告に基づいて県とも連携しながら対応を進めていく。その時にどういった対応したのかという事を報告しないといけない。その報告機関については、児童福祉審議会を設置していればそこへ、設置していなければ新たに設置するか、委員を個人で任命しても構わない。そこへ報告し、対応が問題ないかといった事などを報告させていただきながら、対応を進めていく。

その審議会を子ども・子育て会議にお願いしたいところであったが、条例上そういう会議にはなっていない。

委員個人へ任命させていただき、報告させていただくことを思っている。ただ、委員個人と言いながらもこの子ども・子育て会議の場では、虐待の有無、対応などについて、一定程度個人情報もあるので、ご報告できることをしていきたいと思っている。

委員 こういった事がないと信じているが、こういった事があってはいけない。子ども達を守ってあげたいと思う。

委員 間に第三者委員会みたいなところがないといけない。みんな当事者ばかりになってしまう。報告義務というのと、流れがきちんできていれば、後々の対応も速やかになっていくと思う。